



安心は、多い方がいい。

ワクチンは100%感染症を予防するものではありません。

万一感染が起ってしまった場合でも、ワクチンを接種していると症状が軽くなるのが期待できます。



ワクチンを接種する際には

接種前のチェックポイント

このような場合には、ワクチン接種は避けましょう。

- 熱がある
- 病気の治療中または治療直後
- 妊娠している
- とても興奮している

接種後の注意点

- 2～3日間は安静につとめる
(激しい運動、シャンプーや入浴を避ける)
- 他の猫との接触は、免疫がつくまで避ける

ワクチンの副作用

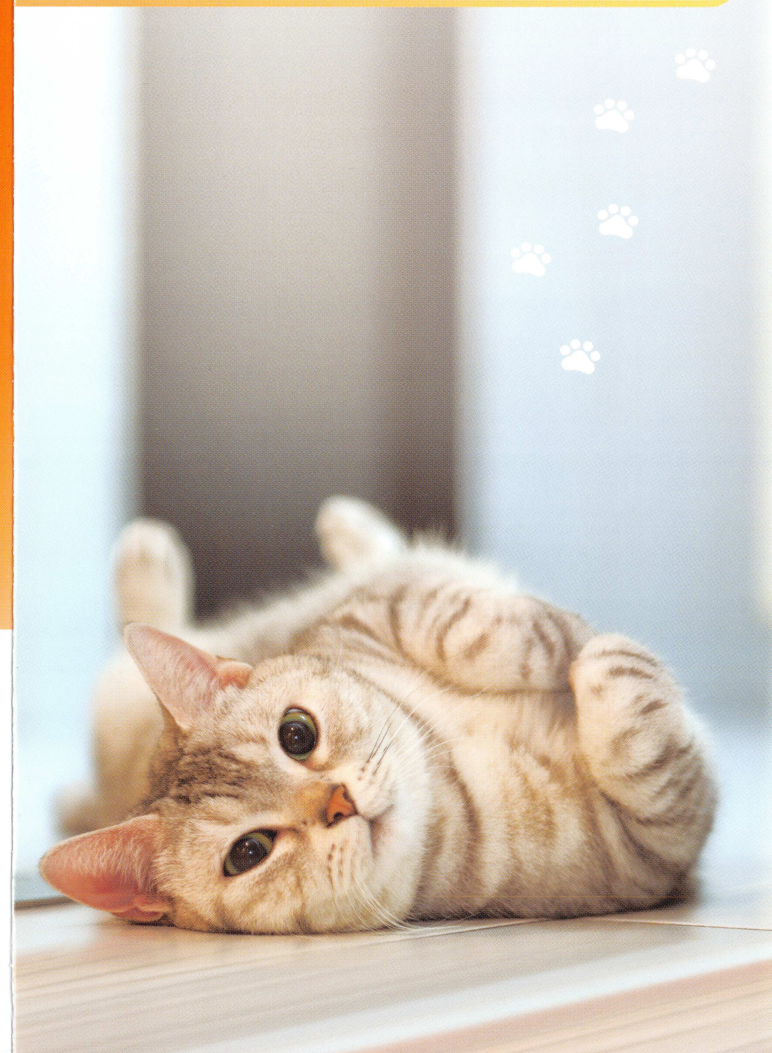
- 接種後、発熱したり、注射部位を痛がる場合があります。
- 激しいアレルギー反応を起こしたり、顔が腫れたり、じんま疹がでることがあります。

普段と違った様子がみられた場合には獣医師にご相談ください。

愛猫の健康は
予防から



ワクチン接種は、 愛猫を伝染病から守る 大切な習慣です



次回のワクチン接種について、獣医師と相談しておきましょう。

ゾエティス・ジャパン株式会社

〒151-0053 東京都渋谷区代々木3-22-7

CA-1502-12-HM-C27-01
C01028

zoetis

ワクチンで、猫のこのような病気を予防することができます。

猫 ウイルス性鼻気管炎

くしゃみ、鼻水、軽度の発熱などのカゼによく似た症状のほか、角膜炎や結膜炎がみられます。**重症になると死亡**することもあります。

猫 カリシウイルス感染症

くしゃみ、鼻水、軽度の発熱などのカゼによく似た症状を引き起こします。口の中に潰瘍、水疱ができ、まれに急性結膜炎、鼻水、一過性の発熱がみられるほか、関節と筋肉の痛みからくる歩行困難などが起こることもあります。特に子猫の場合、**他の病気との合併によって症状が悪化し、死亡**することもあります。

猫 汎白血球減少症

食欲・元気消失、発熱、嘔吐、下痢などの症状を引き起こし、体力のない子猫の場合、**たった1日で死にいたる**こともあります。妊娠中の母猫が感染すると、流産、異常産の原因にもなります。

猫 白血病ウイルス感染症

感染初期に発熱や元気消失などの症状があらわれた後、一旦回復します。その後、数カ月～数年を経て発病し、著しい免疫力の低下、貧血、白血病、腫瘍などを引き起こし**3年以内**に**80%が死亡**します。

猫 クラミジア感染症

この病気の特徴的な症状は結膜炎です。その他にくしゃみや鼻水、咳、肺炎を引き起こすこともあります。**重症化すると命にもかかり**ます。

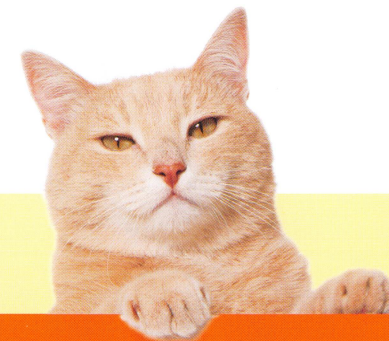
猫 免疫不全ウイルス感染症(猫エイズ)

感染初期は無症状であることが多いため、感染に気づきにくいのが特徴です。感染後は、徐々に免疫機能が低下し、治りにくい口内炎や歯肉炎等がみられるようになり、この状態が数カ月～数年つづきます。さらにエイズ期まで進行すると、激しい体重減少、貧血、悪性腫瘍等があらわれ、**多くの場合数ヶ月で死亡**します。



ワクチンで防げる猫の感染症

	ワクチンの種類		
	1種	3種	5種
猫ウイルス性鼻気管炎		🐾	🐾
猫カリシウイルス感染症		🐾	🐾
猫汎白血球減少症		🐾	🐾
猫白血病ウイルス感染症	🐾		🐾
猫クラミジア感染症			🐾
猫免疫不全ウイルス感染症		🐾	

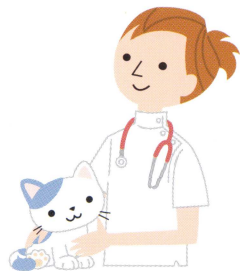


定期的なワクチン接種で、愛猫を守りつづけてあげましょう。

子猫

子猫が母猫から受け継いだ免疫が弱まる時期に合わせて、生後8週ごろ*から、ワクチンの接種が始まります。この時期のワクチンは、数週間隔で2～3回の接種が必要です。

※ワクチンの種類によって接種開始時期が異なります。詳しくは獣医師にご相談ください。



成猫(2年目以降)

獣医師と相談し定期的なワクチン接種を

子猫の時期にワクチン接種により感染症から守ってあげることができても、そのワクチンの効果は徐々に弱まってしまいます。ウイルスや細菌は日常生活のあらゆるところに潜んでおり、常にあなたの愛猫を狙っているのです。

屋外飼育の猫

屋外にも出ていく猫は、グルーミングや喧嘩などにより、猫白血病、猫免疫不全ウイルス感染症(猫エイズ)、さらには猫クラミジア感染症に感染するリスクが屋内飼育の猫に比べて高くなります。そのため愛猫が屋外にも出ていく場合は、3種混合ワクチンに加えてこれらの感染症の予防を推奨します。

